

# TMS との統合後に TelePresence エンドポイント設定を回復する際のトラブルシューティング

## 目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[問題](#)

[設定変更の原因の確認](#)

[考えられる原因](#)

[TMS が構成のバックアップを元に戻す](#)

[永続テンプレートが適用されている/永続設定が存在する](#)

[解決策](#)

[TMS が構成のバックアップを元に戻す](#)

[永続テンプレートが適用されている/永続設定が存在する](#)

## 概要

このドキュメントでは、Cisco TelePresence Management Server ( TMS ) と統合した後、Cisco TelePresence エンドポイントの設定で自動変更が発生するときに遭遇する問題について説明します。

注: このドキュメントに記載されているシナリオ、症状、および手順は、初期設定がすでに完了した後のトラブルシューティングを目的として書かれています。

## 前提条件

### 要件

このドキュメントに関する固有の要件はありません。

### 使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、Cisco TelePresence Codec ( TC ) ソフトウェアまたは MXP および TMS を実行する Cisco TelePresence エンドポイントに基づいています。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな（デフォルト）設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、設定が及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

## 問題

TMS に追加されたエンドポイントで、毎晩、またはランダムな時間に設定が不明な値に復帰してしまう。エンドポイントのこれらの設定変更には複数の原因がある可能性があります。設定が戻ると発生する問題は、エンドポイントのコーデックのリブートまたは TMS の再プロビジョニングが原因です。

変更が TMS によって行われたのか、それともユーザにより手動で実行されたのかを確認する必要があります。

## 設定変更の原因の確認

次のログの一部は、変更がユーザ *admin* によって行われるときに観察可能な出力を示します。

```
ppc appl[2743]: 854597.29 CuilApp User admin(1001) successfully changed
configuration 'Config/H323/Profile[1]/CallSetup/Mode' to 'Direct'
from 64.X.X.X.
```

出力に次の点を示されています。

- Web インターフェイスへのアクセス元 IP アドレスは 64.X.X.X。
- ユーザは *admin* としてログインしている。
- 加えられた変更点：「Config/H323/Profile[1]/CallSetup/Mode」から「Direct」に変更。

IP アドレスを確認することが重要です。IP アドレスが TMS のものである場合、TMS が設定の変更を行ったことが確認されたので、次の項を参照して問題のトラブルシューティングを行ってください。

## 考えられる原因

この項では、この問題に対して考えられる 2 つの原因について説明します。

### TMS が構成のバックアップを元に戻す

このドキュメントで説明されている例では、エンドポイントのゲートキーパーに対する H.323 コールセットアップの変更が手動で行われています。ただし、TMS のバックアップは *Direct* に設定されています。

設定が戻されたエンドポイントが特定できたら、TMS Web インターフェイスに移動し、その特定のエンドポイントに移動します。

1. TMS Web インターフェイスにログインします。
  2. [System] に移動し、エンドポイントを見つけます。
  3. 画面の左側でエンドポイントを選択したら、画面の右側にある [Settings] タブにカーソルを移動します。
  4. [compare settings] をクリックします。
  5. 変更された設定を探します。 システム設定が赤で強調表示されている場合は、TMS がシステム設定と TMS がバックアップした設定の間に競合を見つけたことを示します。
- 参考のために画像を次に示します。

TMS がバックアップを復元するとき、エンドポイントの設定を復元し、これにより問題が発生します。

## 永続テンプレートが適用されている/永続設定が存在する

設定変更の別の理由として、TMS にエンドポイントの永続的な設定があることが考えられます。

永続テンプレートとしてエンドポイントに設定して適用された設定テンプレートがあるかどうかを確認します。

設定テンプレートを確認するには、次の手順を実行します。

1. [Systems] > [Configuration Templates] > [Configuration Templates Activity Status] の順に移動します。
2. 成功したイベントを確認して、対象のエンドポイントがリストされているかどうかを特定します。

エンドポイントが表示されたら、永続設定テンプレートまたは設定を削除します。必要に応じて、永続設定を編集することもできます。

## 解決策

この項では、前の項に記載した問題の原因に対する解決策を提示します。

### TMS が構成のバックアップを元に戻す

この問題を解決するには、エンドポイントの変更が完了してから、TMS の設定をバックアップする必要があります。

TMS のバックアップを作成するには、次の手順を実行します。

1. [Systems] > [Configuration Backup] > [Perform Backup] の順に移動します。

2. バックアップを作成するエンドポイントを選択し、[Make backup] をクリックします。
3. 構成のバックアップ/復元アクティビティのステータスを表示して、100 % 正常に完了したことを確認します。

## **永続テンプレートが適用されている/永続設定が存在する**

この問題を解決するには、永続テンプレートを [No template] に変更します。または、必要に応じて永続テンプレートの設定を変更することもできます。

次の図に、設定テンプレートの永続設定の例を示します。